

マウス、ラットおよびヒトの各組織専用試薬 比較データ

第一抗体とヒト組織用試薬を用いてマウスあるいはラット組織を免疫組織化学染色した場合、特異反応とは別にヒト組織用試薬が原因で起こるバックグラウンド染色がみられる場合があります。マウスおよびラット組織専用試薬で免疫組織化学染色した場合、そのようなバックグラウンド染色はみられません。

1. 各組織専用試薬を用いてバックグラウンド染色を明確にした例

- マウス、ラット組織を用いて各組織専用試薬による免疫組織化学染色を行った。
第一抗体のかわりには抗体希釈液を用いた。発色には、シンプルステインDAB溶液(茶色)を用いた。

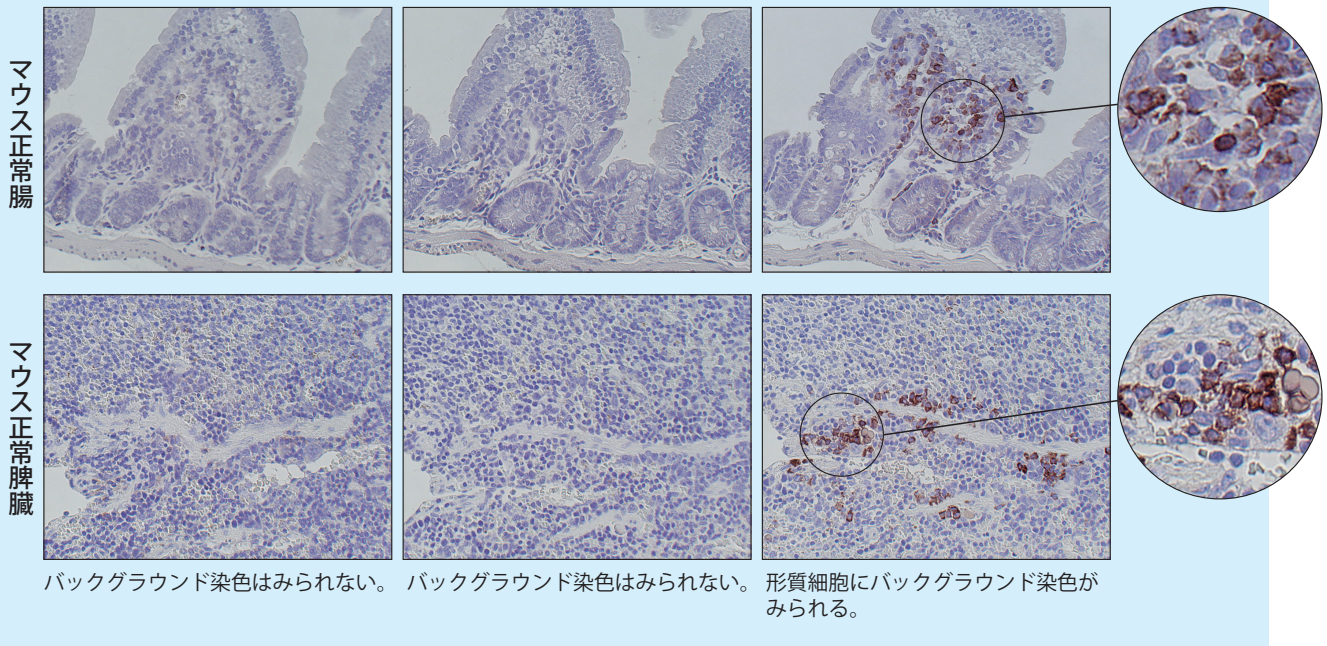
パラフィン包埋切片

マウス組織

【マウス組織専用試薬】
マウスステインキット

【マウス組織専用試薬】
シンプルステインマウスMAX-PO (Rat)

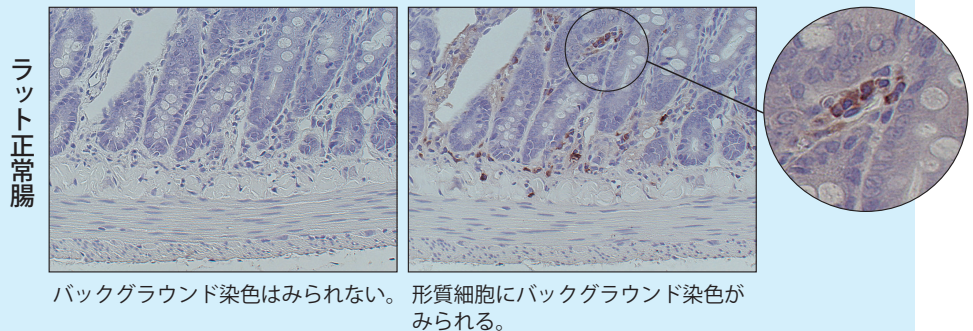
【ヒト組織用試薬】
シンプルステインMAX-PO (M)



ラット組織

【ラット組織専用試薬】
シンプルステインラットMAX-PO (M)

【ヒト組織用試薬】
シンプルステインMAX-PO (M)



2. 二重染色を用いてバックグラウンド染色を明確にした例

- ・マウス組織を用いて、1回目の染色には抗マウスCD45R/B220モノクローナル抗体を用いてマウス組織専用試薬にて検出した。発色にはVIP (青紫色)を用いた。2回目の染色には、第一抗体のかわりに抗体希釈液を用いて、ヒト組織用試薬にて検出した。発色にはDAB (茶褐色)を用いた。

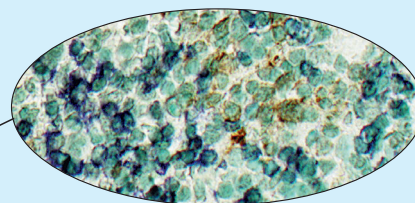
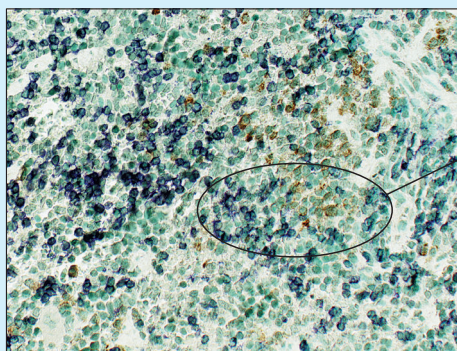
ヒト組織用試薬を用いてマウス組織を免疫組織化学染色した場合、特異染色の他に、本来抗原が無いところにバックグラウンド染色を起こしてしまうことになります。



パラフィン包埋切片

マウス組織

マウス正常脾臓



第一抗体による特異的な染色が青紫色で見られる。
一方、ヒト組織用試薬による非特異的な染色が茶色で見られる。

《1回目の抗原検出》【VIP発色(青紫色)】

- ・使用キット：シンプルステインマウスMAX-PO (Rat)
- ・第一抗体：抗マウスCD45R/B220モノクローナル抗体(動物種：ラット)80倍希釈
- ・抗原賦活化処理：10mMクエン酸緩衝液(pH 6.0)にてMW処理(+)

《2回目の抗原検出》【発色：DAB発色(茶褐色)】

- ・使用キット：シンプルステインMAX-PO (MULTI)
- ・第一抗体：第一抗体のかわりに抗体希釈液を使用